

教化育成の在り方について

発達心理学的視座からの試論

開祖の志

- 人づくりによる国づくり
 - 他の民族から尊敬と信頼を受ける民族に育てる
 - 祖国復興
 - 金剛禅運動(理想境建設を使命とした幸福追求)
- 組織の性格
 - 運動体
 - 運動目的達成のための教育体

詳細は「[金剛禅概括私論](http://www.kumagera.ne.jp/diamedic/kongozen.pdf)」(<http://www.kumagera.ne.jp/diamedic/kongozen.pdf>)を参照の事。

金剛禪門信徒の生き方

- 金剛禪門信徒は、いのちの限り金剛禪運動を展開する
 - 金剛禪運動とは
 - 拝み合い援け合いの輪を自らの周囲に築き広めつつ、「信条」を実践することによって、「半ばは自己の幸せを 半ばは他人の幸せを」実現する幸福運動
 - 「信条」
 1. ダーマ信仰・人の霊止たる私の認識・自他共楽を指向
 2. 日本人としての誇りと自信(改定後は本来の意味喪失)
 3. 真の勇者としての矜持と廉恥
 4. 自己確立の修行と同志的連帯による理想境建設への邁進、自他共楽の実現。

組織に必要な(中核的)人材 金剛禪門信徒

- 運動体のリーダーとして力強く運動展開する人
 - 道院長、幹部
- 社会のリーダーとして力強く運動展開する人
 - 道院長、幹部、高校生～高齢者
- 将来の指導者を目指して修行に励む人
 - 幹部、小学校高学年～青年後期(～高齢者)
- 組織の気風によって育てられていく人
 - 幼児～青年後期(～高齢者)

必要な中核的人材は、エネルギーと思考力のある人。

(入信時には、信仰や信心と無縁であっても、教えに否定的でなければ構わないものであり、むしろ強さへの憧れなどのエネルギーをもっていることが重要である。)

組織に必要な人材

少林寺拳法個人会員

- 運動体のリーダーとして力強く運動展開する人
 - 部長・監督、幹部
- 社会のリーダーとして力強く運動展開する人
 - 部長・監督、幹部、高校生～高齢者
- 将来の指導者を目指して修行に励む人
 - 幹部、小学校高学年～青年後期(～高齢者)
- 組織の気風によって育てられていく人
 - 幼児～青年後期(～高齢者)

必要な人材は、エネルギーと思考力のある人。

財団の会員は、宗教色のない少林寺拳法の理念や価値観を学び、それを今現在の人生に活かそうと努力する者であって、将来、気軽に別の価値観へと転向し得る。

(門信徒は、人生を賭けて信仰を貫く決心をする者であって、改宗する場合は人生の一大事として深刻な覚悟をもって行う必要がある。)

社会貢献として育成したい人々 非門信徒(少林寺拳法部外)

- 母親になる人
 - 小学生高学年～青年後期
- 問題行動のある人
- 発達障害とそれに近い可能性のある人
- 抑うつ症状のある人(自死念慮を含む)
- 生きづらさを感じている人
- 犯罪歴のある人
- 幼児、運動したい人、精神性を求める人、他

彼らが組織の中核的人材(門信徒)でない場合、金剛禅や少林寺拳法の価値観を強制せず、多様な価値観のまま幸福を追求できるように指導する

- 金剛禅は、大勇猛心を決定しリーダーを目指して不撓不屈の修行を誓う人のために説かれたこだわりの強い教えであるため、指導的立場を指向しない人にとっては、その厳しい教えがかえって苦悩を増長しかねない
- 理想境建設の一環として、外部の人を対象に、幸せ(生甲斐と喜び)をつかむ気軽な方策を伝えることを教育の主眼とする(金剛禅の粹にはめない)
- そのためには、門信徒による強くて優しく賢い同志の連帯が大前提
 - 社会貢献に偏ると組織の特性が変わり、組織に必要な中核的人材が集まらなくなる

道院運営の基本

- 教化育成は、肉体的精神的発達段階を十分考慮する。
- 何をおいても、まずは中核となる人材に、嘘のない本物の技術を身につけさせる。(これなしに組織の未来はない)
- 中核となる人材に、ダーマ信仰を確立させ、教えを説いて、本当の強さを身につけさせる。(これにより魅力的組織に)
- 中核となる人材を、理想の人間像(開祖)に近づける。
 - 信仰(靈止としての矜持と自信)、廉恥、人道を重んじる、主体性、自他共楽、正義感、勇気、慈悲心、行動力、感性、合理性、不条理への怒り、協調性、信念、使命感(生甲斐)、同志的連帯、...
- 同志的連帯により、柳生の里を実現する。
- 組織として、個として、理想境建設に邁進する。(本分)
- 様々な人の教育に社会貢献として従事する。(理想境建設)
 - 社会貢献としての教育活動の際には、金剛禅の価値観・理想にこだわらず、当事者の個性や価値観を尊重し、人生の三要素(生甲斐・価値の提供・価値の受入)が本人の心の中で調和(幸福)するよう、指導育成していくことが重要である。

金剛禪運動指導者のありかた

- 金剛禪運動の指導者は、教範に従って行動する事が大原則
 - 自らがダーマの分霊を持つ人間である事を自覚する
 - ダーマ信仰とそこから生まれる使命感を確立する
 - 指導者として常に人の先頭に立って道を開く
 - 金剛禪運動の目的や理想境建設への指導理念を体現する
 - 指導者としての立場を維持できるよう勉学に励む
 - 人格識見の向上に努める
 - 布教のための具体的人集めの手段である正統少林寺拳法の技術の向上と、指導力の養成維持に努力を怠ってはならない
- 指導者の実践項目
 - 「修行目的の確認」
 - 「正しい判断力の養成」
 - 「決断力の訓練」
 - 「不正に対する怒りと行動」
 - 「真の愛国運動への挺身」
 - 「道院の正常な運営」

指導的立場の確立

- 最初に、決して敵わない相手であると感じさせる
- 仲間であると認識させ、敵対しない限り攻撃されないと安心させる
- 保護してもらえると信頼させる
- 指導者自らが金剛禅運動指導者のありかたに徹することにより、尊敬とともに深い信頼を得る
- 達磨になる、桃太郎になる、開祖になるための、身近な目標として、指導者自身の背中を見せて育てることを大原則とする
- 和顔愛語(怒るべきときは怒り、褒めるべきときは褒める)の指導を心がける
- 同志的連帯意識を高め、全員で柳生の里を築く

発達段階

- 乳幼児期(乳児期0～2歳、幼児期2～4歳頃)
- 児童期(遊戯期5～7歳、学童期8～12歳頃)
- 青年期(青年期13～22歳頃)
- 壮年期(前成人期23～34歳頃)
- 中年期(成人期35～60歳頃)
- 老年期(老年期61歳頃～)
- (発達障害)

乳幼児期の発達課題

- 基本的信頼（基本的不信）、自律性（恥と疑惑）
- 道徳性は成人の権威による
- アニミズム、呪術性、軽信性、自己中心性
- 歩行の学習、固形食を取る学習、話すことの学習、排せつの学習、性差と性的謹みの学習、など
- 人間が人間として育つため絶対的に重要な基礎的期間

乳幼児期の指導要諦

- アタッチメント(愛着)を2歳までに確立させることが、人生の基礎となることから、この時期の子供は、何をおいても母性との関係が最も需要である。
- 道院でできる事は、社会貢献として母性を育てることが中心になると思われる。
- 但しその場合、現に母親になっている人への教育では間に合わないため、小学校高学年の女児～出産前の女性をターゲットとすべきである。

児童期の発達課題

- 自主性(罪悪感)、勤勉(劣等感)
- 道徳性は、仲間の規約による
- 宗教意識は、道徳性、現世利益傾向、懐疑的態_度または自発的祈り
- 日常の遊びに必要な身体的技能の学習、遊び仲間とうまく付き合うことの学習、男子あるいは女子としての適切な社会的役割の学習、読み・書き・算盤の基礎的能力の発達、個人的独立の達成、など

児童期の指導要諦

育てる拳法

- 小学校3年生までのプレゴールデンエイジ
 - 技術よりも基本的な運動(遊び)能力を重視し、飽きさせないように、様々なプログラムを提供することが重要である。
- 小学校4年生からのゴールデンエイジ
 - 人生で唯一最高の技術習得期であるため、巧緻性やバランス能力を高める技術指導が重要。
- 良心を育てる重要な時期
 - ダーマ信仰を確立させ、靈止としての自信を植え付け、教条的断定的に、金剛禪の教えを伝える。
 - 和顔愛語(喜怒哀楽を明確に)で指導し、良心を育む
- 九転十起と共感力をメインテーマに

青年期の発達課題

- 同一性(役割混乱)
- 志学
- 口先道徳(10歳～14歳)→矛盾道徳(～18歳)→自立道徳(20歳～)
- 宗教的権威・宗教教育への強い反発
- 信心・入信等の宗教的目覚め(精神年齢12歳～)
- 理想が強大であればあるほど悩みも大きくなる
- 何でもできる(スーパーマン的)自信が幻想であることを知り、抑うつ的になったり、虚勢を張ったりする場合もある
- 両性の友人との成熟した人間関係をもつこと、男性又は女性としての社会的役割の達成、自分の身体的変化を受け入れ身体を有効に使うこと、両親や他の大人からの情緒的独立の達成、経済的独立の目途を立てる、など

青年期の指導要諦

鍛える拳法

- 自己確立
 - 肉体的充実の時期にある事から、数を掛けて技能の向上と自信を高める(理屈よりも力で強引に指導する)
 - 権威により植えつけられた霊止としての自信を、努力の成果で自ら掴み取ることによって得られる実感の伴う自信で補強する。
 - 矜持と廉恥の心を育てる
 - 正義感を引き出し自信と勇気と慈悲心を養う
 - 使命感(生甲斐)を醸成し人事而待天命と而今とを養う
- 自他共楽
 - 対人交流によって自己意識を育み自己としての主体性と、他者との調和を図らせる
- 人間関係と多様な読書や体験によって、人生の経験値を高める
- 反抗・破壊と信心
 - それまでの価値観を自ら否定する時期であることから、教団を離れたり危険思想に染まったりする可能性も高まるが、適切な論理的指導によって、より深い信心に導くことが重要である
 - 精神的混乱をきたしやすい時期であるため、楽しく幸せな人生を築く法である金剛禪を適切に指導する

壮年期の発達課題

- 親密（孤立）
- 而立
- 配偶者との生活を学ぶこと、子供を育てること、市民的責任を負うこと、自らに適した社会集団を見つけること、など

壮年期の指導要諦

鍛える拳法

- 修錬と多様な行動によって同志的連帯を築く
- 技術指導は、合理性を重視し、日常生活に活かせるように導く
- 教えについても、論理的にダーマ信仰（靈止としての自信）へ導き、合理的かつ深遠なる本質をつかませて、矜持と廉恥をもたせる
- 使命感（生甲斐）を醸成し、価値の提供と受入の三要素が調和することの喜びを感得させる
- 人事而待天命と而今とを養う
- 全体をとおして、理性と感性、マクロの視点とミクロの視点など、様々な調和（力愛不二）を目指す

中年期の発達課題

- 生殖性(停滞性)
- 不惑、知命
- 大人としての市民的・社会的責任を達成すること、一定の経済的生活水準を築き適応すること、年老いた両親に適応すること、など

中年期の指導要諦

養う拳法

- 道院における後進の指導によって、家庭や職場でのスキルを磨く
- 合理的技術の追求を図る
- ダーマ信仰にもとづき、確固たる使命感(生甲斐)を築き、価値の提供と受入の三要素が確実に調和するよう導く
- 経験値を高め、多様な価値観を知る
- 人事而待天命、而今、執着のコントロール

老年期の発達課題

- 自我の統合（絶望）
- 耳順、従心
- 肉体的な力と健康の衰退に適応すること、引退と収入減少に適応する事、配偶者の死に適応すること、社会的・市民的義務を引き受けること、など

老年期の指導要諦

養う拳法

- 精神的円熟味を、内にこもらず、社会改革に向けられるよう、エネルギーを生み出す。
- 技術面での円熟を目指す。
- 後進の指導
- 衰えのスピードを遅くする。
- 執着のコントロール
- 多様な価値観の中で調和を図る。
- 幸福(人生の三要素の調和)追求
- 理想境建設への邁進

(注) 発達障害の分類

発達障害は、本来理想境建設の一環である社会貢献として育成すべき対象だが、実際には、グレーゾーンを含めるとその存在がマイノリティーとは言えない程に増えてきているため、一般の指導現場においても十分に配慮しなければならない。

- 学習障害(LD)
- 運動能力障害
- コミュニケーション障害
- 注意欠陥多動性障害(ADHD)
- 自閉症スペクトラム、アスペルガー等(高機能PDD)

(注)発達障害の指導要諦

- 個性に応じた十分な配慮
 - 医学的・心理学的研究
 - 本人の観察や家族等からの傾聴を怠らない
- 信頼関係の構築が最優先
- 執着のコントロールを最重点課題として指導する
 - 指導においては金剛禅の価値観にこだわらず、執着をコントロールする術を教えて、本人が生きやすくなることを目指す
- 信頼関係構築後に、あえて苦手な場面に追い込み、そこからの脱却法を感得させることも試行する
 - 本人が対処できない程に追い込んではいならない
 - 無理のない程度の肉体的苦痛に耐える稽古(拳立て、下段蹴り等)は、堪え性を育むと同時に、他者への共感力を高める可能性もある
- 本人のためにもその他の人たちの教育のためにも、全員で対処する(怒るときも褒める時も全員の前で)
 - ただし、個室で個別対応することが必要な場合もあることを十分に認識し実施する
- 幸福感(人生の三要素)と評価基準の統一

易筋行の指導要諦

- 知る
 - 示範
 - 最低二方向から見せる
 - 流れを止めずに魅せる
 - 概略説明
 - 最初に攻撃法
 - 略を示唆するにとどめ、技術の細かな説明はしない
- わかる
 - 試行錯誤
 - 質疑応答で理解を深める(質問が出なければ、課題を与える)
- 出来る
 - 素直で軽い攻撃からはじめて、徐々にシビアな攻撃に至る
 - 法形にこだわり意地でも掛ける強引さ
 - 相手の出方に応じて連絡変化できるしなやかさ
 - リスクマネジメント
 - どんな攻撃があり得るか、どこが安全か、どう防ぐか
- 身につく
 - 一つの法形名から一つの法形(覚える)
 - 一つの攻撃から関連する各種の法形(整理する)
 - 各種攻撃から多様な法形(使える)
 - 術の解説(相手をどのようにしたいのか)
 - 技の解説(そのためにどんな技を使うのか)
 - 略の解説(誘い込むための構えや布陣、意識を逸らせるための当身や動き等)
 - 人生(生き方)への展開(矜持と廉恥、教えを活かす)

乱捕修鍊法

- 共通
 - 基本間合
 - 防御間合と攻撃間合の取り合い
 - 決心覚悟による基本間合の創出(守主攻従)
- 剛法乱捕
 - 氣の先の稽古
 - 攻者は基本間合いから攻撃を仕掛ける
 - 氣の先をとって、すぐに動き、胴を突き抜く稽古
 - 扇の理(肘と膝が扇の要)を体感する稽古
 - 後の先の稽古
 - 氣の先を取ったら余裕をもって待ち、後の先で対処する
 - 攻者の戦術コンビネーション(バリエーションを広げる)稽古
 - 攻者は3連から5連の攻撃を仕掛ける
 - 守者は軽く当てさせる
 - 対の先・後の先・先の先を稽古
 - 同様の攻撃に対して、守者が対の先・後の先・先の先で対処する
 - ストップモーション
 - 守者は目を閉じる
 - 攻者がワンモーション(攻撃間合)で攻撃できる態勢を作り、そこでストップ
 - 攻者の合図で、守者は目を開け対応できる体勢を作る
 - 守者の合図で、攻者は攻撃、守者は対処(そこから法形へフィードバック)
- 柔法乱捕
 - ブラインドトレーニング
 - 守者は目を閉じて対処する(無理と無駄を省く)

鎮魂行の指導要諦

- 姿勢 動と静、骨盤・臍下丹田・胸郭・頭
- 調息 呼吸の経路を淡々と見守る、雑念を放牧、今ここ自分、数息観、ダーマ思念、教典唱和
 - 金剛禪の調息法 意識的に吸気・漏気・充気(調息の主眼目)・呼気・残気として、気を充実させる
 - 靈止たる我に「宇宙の精気我が体中に入る」と吸気で縁を感じ、呼気の際に「ダーマの特性(宇宙の靈力: 育徳・明德・力徳・健徳)我(人間の靈性: 仁愛・英智・勇氣・健康)に発する」と思念して自信を深める
- 観察 鼻～丹田、呼吸の質感を観察する、今ここ自分の呼吸の安楽感、息の変化の瞬間
- 集中 鼻先～鼻の頂点、息の感覚に集中、周辺の感覚数%、緊張部位の自覚で息を延長
- 平常心 呼吸にそっと心を向ける、何が起きても放牧し呼吸に戻る(呼吸の比を上げる)
- 緊張と不快 反応せずに、感じる部位に息を入れ、感じる部位から鼻先へ息を吐く
- 雑念 雑念が浮かんだら快か不快かラベリングし、それを3回唱えてから呼吸に意識を戻す
- 禪定 鼻先一点で息(又は画像)をみつめ、捉えられなくなったら焦点を狭めることで禪定
 - 第一禪定: 一点集中・対象をとらえる思考・対象についての思考・喜悦(ピーティ)感・安楽感
 - 第二禪定: 一点集中・喜悦感・安楽感 第三禪定: 一点集中・安楽感 第四禪定: 一点集中・平静
- 身体感覚 呼吸と共に身体を解剖して各部を実感する、そして身体全体を実感する
- 苦楽 苦か楽かニュートラルか瞬間毎にいちいち分類する
- 無我 欲と怒りと迷いと喜悦を感じ、その発生も消滅も自分でコントロールできないことを実感

聖句から道訓まで唱和することによって、理想の人間(開祖)になる覚悟を新たにし
ダーマを思念することによって、靈止としての自信を高めた後、禪定に入り
打棒によって、即座に現実を取り戻し平常心で行動し
信条を高らかに唱和することによって、金剛禪運動の展開を誓う

一石三鳥の効果を発揮

- 一石三鳥の効果
 - 護身練胆・精神修養・健康増進の三徳兼備の法を教えながら道を説けば、不屈の精神力・金剛の肉体・自信と勇氣(と行動力)を与えられる。(拳士であることの誇りや立場・資格の誇りから、靈止としての誇りへ)
- 法話・学科
 - 常にダーマを説き靈止を説くことで、誇りと自信を植え付ける
 - 道を説いて正義感を引き出す
 - 理想の人間像たる開祖を伝え、開祖になりたいと思わせる(転ばぬ先の杖ではなく、失敗から学ばせる)
- 鎮魂行
 - 誇りと自信と廉恥
 - 考える力と考えない力
 - 調息
 - 行動に結びつくエネルギー(金剛禪運動のモチベーション)
- ウォーミングアップ
 - アップしたうえで柔軟性を高める
 - 筋力トレーニング(直後にストレッチも)
 - 子供には基本的運動能力を高める遊びも必要
- 基本演練
 - 基本技術の徹底
 - 攻撃力を高めることで自信を養う(守れる自信をつけるよりも、てっとり早く自信がつく)
 - 日常生活を含めた体の使い方を錬成
- 術科目
 - 防御反撃力を高めるために徹底的に数を掛けることによって体感する自信
 - 立場や資格によって生み出される矜持と廉恥
 - 尽くし合いによって、揉み合い援けあいの同志的連帯意識を醸成(どんな局面でも「助けて」と言いあえる)
- クールダウン
 - ダウンや整法等によって健康増進へと結びつける

道院長誓願

- 私は、金剛禅運動の先導者として、ダーマを信仰し、ダーマの分霊としての良心をもってすぐれた人間であることを自覚して、自己を確立し、同門拳士の先頭に立って宣教広布に挺身いたします。
- 私は、拳禅一如、力愛不二の法門を指導するにあたり、祖を滅せず師を欺かず長上を敬し後輩を侮らず、同志互に親しみ合い援け合い、協力して道のためにつくします。
- この法は、濟生利人を目的として布教し、決して自己の名利のために行うことは致しません。
- 私は、信念と誇りを以て、門下生に生甲斐と喜びを与え、平和で豊かな理想世界実現に邁進することを誓います。

資料1：地域社会を理想境に

価値の交換と間合の選択によって理想のコミュニティーを築く

- 国家総動員法に基づく隣組から生まれた町内会の在り方には疑問
 - 「こうでなければならない」という価値観の押し付けは、住民全員の幸せに結びつかない
- 健康で文化的な最低限度の生活権と幸福追求権が全ての人に認められる地域社会であってほしい
 - 住民一人一人、本人にとって幸せなことの追求(個性の尊重)
- コミュニティーは、適切な間合いをとることによって紛争を予防する
- 拝み合い援け合い
 - 自助、互助、共助、公助の順
- 個も公も力愛不二(力と慈悲と英知の調和)が不可欠
- 出来る事をできる時に
 - 内容ごとに、それに価値を感じる人が、自らの価値を提供する(適正な価値の交換)
 - 価値を感じない人は最低限の会費で
 - 非協力的であれば最低限の付き合いにとどめ(本人が望む範囲での付き合い、差別ではない)、地域住民として必要なある程度の価値を無償で提供(弱者を支える社会の余裕)
- DDRの手法による紛争解決
- 平和で豊かな理想コミュニティーの実現
 - 正直者が馬鹿を見ない、平和で豊かな社会
- 理想境を地域から世界へ広げる

資料2:母性を育てる

- 人を育てるための知識として発達心理を教育
 - 2歳までにアタッチメント(愛着)
 - ミルクよりも温かさ
 - 安全基地としての母親
 - 人間性獲得のレディネス(学習できる準備状態)は、乳幼児期～児童期であり、この時期に人間的環境で育つことが絶対条件である。
- 人生の三要素(生甲斐、価値の提供、価値の受入)を自身の心で調和させること＝幸福

資料3:テロに蹂躪されないために

- テロリストや猟奇的犯罪者が生まれる理由
 - 無批判に盲信したり、権威的価値観を否定して過激な思想に転向したりする青年期の心理的特徴によることが多い。
 - 愛着の問題と、貧困や教育問題あるいはセルフフィッシュな政策による社会的問題等が背景となりやすい。
- テロリストや犯罪者に蹂躪されないための方策
 - 予防(最も重視しなければならない方策)
 - 警察・裁判(事後対策として、オウム事件には効果的であったがIS等の国際的事案には対処が難しい方策)
 - 軍事(報復の連鎖を招きやすく、敵にも味方にも大きな被害の出る可能性が高いため、できる限り避けたい方策)
- 予防策
 - 心の改造による平和的手段での理想境建設が大命題
 - 具体策
 - 三つの目(他人の目、神の目、自分の目)
 - 世間の目で監視、聖職者による働きかけ、本人の良心(他者からの働きかけを含む)
 - マーケティング
 - Anonymous(アノニマス)によるハッキング? (匿名性に由来する危険性は大きい)
 - 青年期の心理に働きかける積極的なメディア戦略
 - » 恐怖政治や原理主義よりも魅力的な価値観や生甲斐を提示

資料4：理想境建設の組織的展開

大館ボラバスプロジェクト

- 義を見てせざるは勇無きなり
 - 勇気を持たせる教育と、敷居を低くする仕組みが重要
- 自他共楽
 - 道院(自)と地域(他)、大館(自)と被災地(他)等の調和的行動
- 出来る事をできる時に
 - 実動部隊
 - Aコース:肉体作業
 - Bコース:ふれあい活動
 - 支援金
 - 企業を中心とした支援
 - 街頭募金
 - 思いを寄せる
 - メディアを通じた啓蒙
- 「忘れていない」「応援してる」のメッセージを行動に託して
- 街の復興と心の回復を願って
 - 街の復興
 - 公営住宅、宅地造成、防潮堤、嵩上げ工事等
 - ノーマライゼーションという言葉がいない街
 - 津波復興祈念公園
 - 人口流出問題への対処、日本版CCRCの活用など
 - 行政と市民にお金が回る仕組み
 - 心の回復
 - 孤立化を防ぐ
 - 人生の三要素(生甲斐と価値の提供と価値の受入)の調和を願って

資料5-1:大館市総合計画・戦略 概要

匠と歴史を伝承し、誇りと宝を力に変えていく「未来創造都市」

- 健康で、互いのつながりを大切に支えある“健康福祉都市”
- まちや暮らしのなかで市民が活躍し、次代を育む“教育文化都市”
- 地域の特性を活かし、暮らしを支える活力を興す“産業創造都市”
- 暮らしやまちのなかに賑わいと交流を生む“多文化交流都市”
- 豊かな自然とともに安全・安心に暮らせる“環境共生都市”
- 持続可能なまちづくりを支える“行財政運営”

「未来創造都市」を目指し、次の視点に沿って、市の総力を挙げ、匠と歴史を伝承し、誇りと宝を力に変えていく取り組みを進める。

- 東京圏などへの人口流出に歯止めをかける
- 東京圏などから大館への人の流れを作る
- 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 時代にあった地域をつくり、暮らしの安全を守る

基本目標(2019年目標)

- 「ひとづくり」 健やかに次代を育む施策の推進(合計特殊出生率1.47→1.52、婚姻数258件→270件)
- 「暮らしづくり」 地域連携と新たな地域社会の形成(市民満足度61%→64%)
- 「ものづくり」 地域の特性を活かした産業振興(雇用創出数600人増、主な園芸作物販売額5億1千万円→8億5千万円)
- 「物語づくり」 交流人口の拡大とAターン・定住促進(観光入込客数181万人→220万人、Aターン数5人→20人、空家バンク成約23件→55件)

資料5-2:大館市総合計画・戦略 時代潮流と求められる取組及び課題

- 少子高齢化と人口減少社会の進行
 - 地域経済規模や労働力人口の減少、担い手不足による地域活力や地域機能の低下など、人口減少を前提とした対応 等
- 地域経済の変化
 - 市内の産業を生業とし、市民がこれからも“地域で暮らす”ことができる具体的な取り組み
 - ・ 集中と選択の時代に“地域で暮らす”ことを選択させることの可否とその方策
 - 幅広い分野での連携・交流の促進 等
- 環境保全への取り組み
 - 「環境共生社会」や「循環型社会」の構築 等
- 価値観の多様化
 - 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現
 - 地域での支援体制や地域コミュニティの強化 等
 - ・ 拝み合い援け合いのかたち
- 安心・安全に対する関心の高まり
 - 自然災害、犯罪、食品の安全、感染症等、地域の安全対策
 - 都市基盤や公共施設の老朽化対策 等
- 地方分権の進展と市民協働のまちづくり
 - 合併算定替えに対応した行財政運営の安定化
 - 市民と行政との信頼関係の醸成、市民参加のまちづくり 等

市民とともに「ひと」、「暮らし」、「まち」が相互に関わり合いながら、本市の未来につながるものがたり(歴史)を作ることをまちづくりの基本的な考え方として位置付けます。

将来人口 約68,500人(2023年)目標

資料5-3:大館市総合計画・戦略 できること・すべきこと

- ひとづくり
 - 少林寺拳法
 - 母性を育てる生涯教育
- 暮らしづくり
 - 拝み合い援け合いの社会モデル
- ものづくり
 - 生きる力を身につける生涯教育
- 物語づくり
 - ?

資料6：理想境建設の私的展開

教育事業

- ゆるぎない自尊心(磨けば光る可能性を秘めたヒトとしての誇り)
- 努力で開花した能力をみつめて自信をもつ
- 苦悩の根源を知る
- 苦を楽に変換する(価値の提供自体を喜びに)
- 生甲斐をみつける
- 人生の三要素(価値の提供、受入、生甲斐)を知る
- 自らが提供できる価値を知る
- 価値の一つである金融を知りスキルを身につける
- 身体の使い方を知りスキルを身につける
- 生きる力を身につける
- 発達心理を知る
- カウンセリング技術を身につける
- コミュニケーション技術を身につける
- 生甲斐をみつける
- 人生の三要素の調和を目指す(多ければ良いのではなく調和こそが幸せ)

参考文献

- 「少林寺拳法教範」金剛禅総本山少林寺
- 「心理学」有斐閣
- 「発達心理学要説テキスト」川島書店
- 「図解雑学発達心理学」ナツメ社
- 「教室の中の気がかりな子」朱鷺書房
- 「新版子どもの精神科」ちくま文庫
- 「発達障害と呼ばないで」幻冬舎新書
- 「親と教師がなおす登校拒否」創元社
- 「子どもが自立できる教育」小学館文庫